

20251010 建築環境部会についての意見_日建連 高井

省エネ基準の 2030 年に向けた引上げについての意見：

- ・日建連は省エネ計画書届出物件（設計物件）の調査を毎年行っている。現在は 2023 年度届出物件までの調査報告を行っている。

https://www.nikkenren.com/kenchiku/casbee/report_2024.html

- ・2023 年度の日建連届出物件では、2030 年の国の達成目標とする各用途の BEI に対する現状の達成度は下表のような状況である。徐々に BEI 値は改善されてきているが、改善率が一気に上がる傾向にはなっていない。

用途	2030 年の国の BEI 達成 目標	日建連の 2023 年度 BEI 達成件数割合
事務所	0.6	約40%
学校	0.6	約15%
物販店舗	0.7	約30%
飲食店舗	0.7	約10%
病院	0.7	約10%
ホテル	0.7	約10%
集会所	0.7	約40%
工場等	0.6	約60%
集合住宅	新案 0.65（現行 0.8）	新案 約 10%（現行 約 50%）
複合用途	0.6～0.7	約30%

- ・2024 年届出データの集計と分析については、1 年後に公表するが、24 年度の基準引上げを受けて BEI の改善が期待される。一方で、2030 年目標 BEI との乖離はまだ大きく、2023 年届出データを基に以下の意見を述べる。（日建連としては国の目指す水準達成を 2030 年の目標としていますが、国全体の設計物件達成を想定して申し上げます）
- ・非住宅 BEI：病院、ホテル、飲食、集合住宅、学校、物販、複合用途、集会所などの用途の 2030 年度目標 BEI について、全件達成は難しいのではないかと。
- ・集合住宅 BEI：0.8 以下は妥当と思う。
- ・日建連の集合住宅 2023 年度申請物件の UA 値分析を行うと 0.87 前後で推移しており、今後の推移としては、2025 年度以降は最も不利な住戸の UA 値も 0.87 以下に収まるものと推定される。
- ・住宅 UA 値：集合住宅全ての住戸で 0.6 以下、住宅棟で全住戸の平均値表示となるが、2030 年におけるこの断熱性能達成は今後の様子見が必要と思われる。